

「子育て」をみんなで応援しよう！講演会&座談会 報告書

『「子育て」をみんなで応援しよう！講演会&座談会』を下記の日程、内容で実施しました。

日時：令和6年10月20日（日）10：00～12：00

場所：地域交流センター くすのきの家

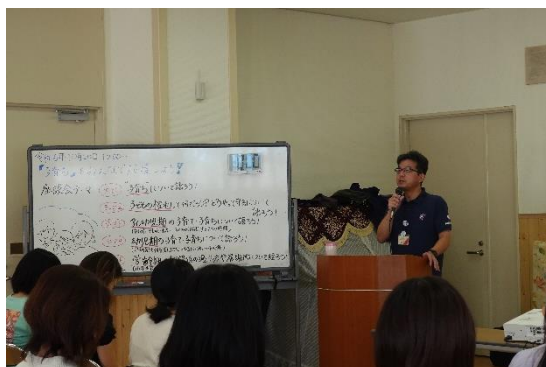
参加者：13名（市外在住含む）

プログラム

1. 開会あいさつ
2. 基調講演「子どもってすごい！対話がひらく子育ての世界」
講師：渡邊 眞依子 氏
(愛知県立大学教育福祉学部教育発達学科准教授：岩倉市子ども・子育て会議会長)
3. 座談会「えんたくん会議」
4. わかちあいタイム
5. 閉会あいさつ

1. 開会あいさつ

開会にあたり、岩倉市健康こども未来部こども家庭課課長よりあいさつがありました。



2. 基調講演「子どもってすごい！対話がひらく子育ての世界」

渡邊眞依子氏を講師に迎え、「子どもってすごい！対話がひらく子育ての世界」をテーマに基調講演をしていただきました。



【講演内容】

テーマ：子どもってすごい！対話がひらく子育ての世界

1. 子どもの権利条約が示す子どもの権利とは

- 1-1. 「こどもまんなか社会」と子どもの権利
- 1-2. 子どもの権利条約の4つの原則と子ども観
- 1-3. 乳幼児期の子どもの権利

2. 乳幼児からの子どもの権利の保障とその難しさ

- 2-1. 乳幼児の「意見」に気づく難しさ
- 2-2. 現在志向の子どもと未来志向の大人というギャップ
- 2-3. 現在の子育てをめぐる状況

3. レッジョ・エミリアの保育に学ぶー子どもの参加する権利の保障とその子ども観

- 3-1. レッジョ・エミリアの保育の特徴
- 3-2. 「有能な存在」としての子ども
 - ・生まれながらにして世界とかかわろうとする有能な子ども
 - ・「有能な」理論家としての子ども
- 3-3. 「有能な」子どもが求める大人の存在
 - ・レッジョにおける「聴く」ということ
 - ・傾聴が生み出す世界
- 3-4. 「有能な」子どもとの対話

4. 子どもの言葉を受け止めるために

- ①大人の側の「余裕」が必要
- ②いろんな大人の目が必要
- ③大人どうしの対話が必要

3. 座談会「えんたくん会議」

座談会「えんたくん会議」では、以下の3つのテーマに分かれて、ワールドカフェ形式で2ラウンド行いました。参加者同士でさまざまな意見を出し合ったり、子どもや子育て・子育てに関する情報や想いを共有しました。

今回の座談会の目的は、ひとつの解決策や方針を見つけることではなく、参加者が子どもとの今後の関わり方や生活を考えるきっかけとなることです。

テーマ1：“子育て”について語ろう！

～渡邊先生の講演から学んだこと、感じたこと～

テーマ2：乳幼児期（結婚・妊娠・出産～子どもが就園するまでの時期）の子育て・子育てについて語ろう！

テーマ3：幼児期（幼稚園や保育園、認定こども園に通っている時期）の子育て・子育てについて語ろう！



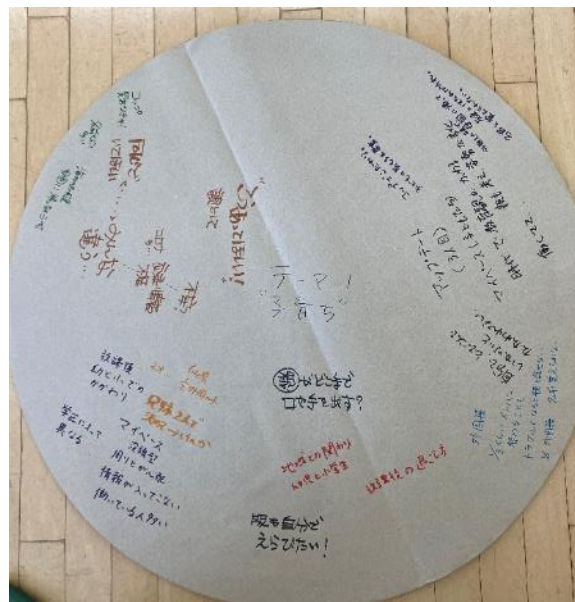
■テーマ1

“子育て”について語ろう！

～渡邊先生の講演から学んだこと、感じたこと～

渡邊先生の講演内容を踏まえて、子どもが「有能な存在」であること、子ども自身が持っているこだわり、兄弟姉妹の関係性について、ざっくばらんに話し合うことができました。

一方で、子どもに任せてよい部分と、親が関わる必要のある範囲について、線引きが難しいという疑問や悩みも出てきました。子どもの個性や子ども自身がもつこだわりを尊重することも大切であるため、子どもとの“よい”関わり方の難しさを共有しました。



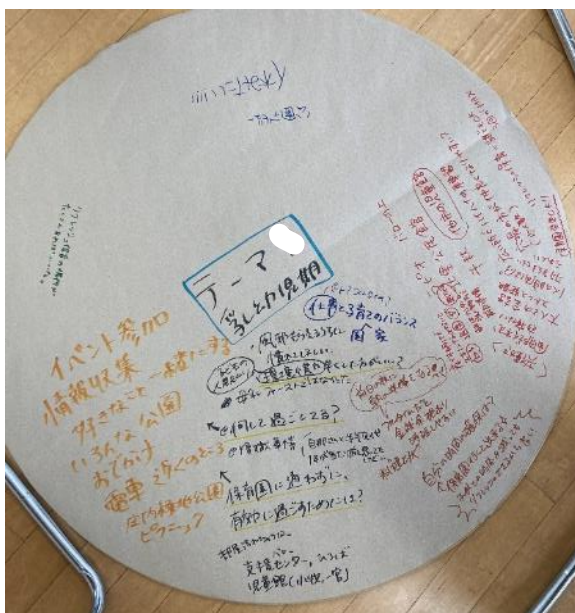
■テーマ2

乳幼児期（結婚・妊娠・出産～子どもが就園するまでの時期）の子育て・子育てについて語ろう！

主に、乳幼児期の子どもとの生活、今後の子育てへの不安を共有し、情報交換をすることができました。

就園前の期間に子どもが有意義に過ごすための工夫や、親自身の職場復帰のタイミングや準備、仕事と子育てのバランス等、幅広い内容で想いや情報を共有しました。

子どもとの時間も大切である一方、その時間をよりよい時間とするために、自分自身の時間や心の余裕も確保していきたいという話がありました。仕事の時間もリフレッシュになる時間だと考える参加者もいらっしゃいました。

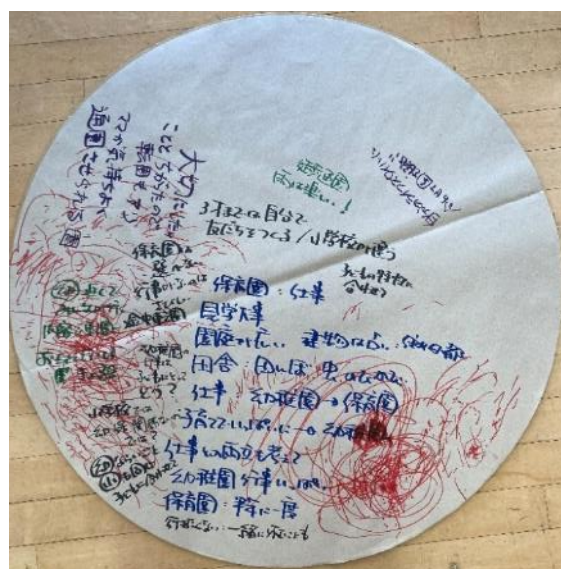


■テーマ3

幼児期（幼稚園や保育園、認定こども園に通っている時期）の子育て・子育てについて語ろう！

主に、今後の園選びでのお悩みについての話が挙げられました。園は、学区が決まられていないため、子どもに合ったところ、親も行きたいと思える園に通うことができ、転園することも視野に入れるのもよいのではないかという話がありました。

また、幼稚園の教育として、子ども自身が物事を多角的に捉えられるように先生が教えているという例もありました。たとえば、普段から「雨は楽しい」と子どもたちに伝えていると、子どもたちは雨天を喜ぶのだそうです。



4. わかちあいタイム

渡邊先生の講演会と参加者同士の座談会を通して、印象に残っていることやキーワードを一人1枚ずつ付箋に書き出しました。

講演会	子どもは有能。自分の子どもは特別なんだと大切に思えるきっかけになった。
	子どもは有能！親の価値観や理想を押し付けてしまっている？悩ましい。
	“有能” な子どもに対する尊敬の念
	“傾聴” 聞き切るを意識したい
	傾聴することは仕事柄よくやっているの、難しく考えなくて良いのか！と気付いた。
	傾聴は「解釈をつける」、「相槌」、「全てできく」
	対話にはゴールはない
	対話はプロセス
	子どもなりにこの世界に慣れようとしている（意味を作っている）。子どもは「大人と異なる人間」と捉える。
座談会	どこまで子どもの声に合わせるかはやっぱり難しい
	同じママさんと一緒に「そうだよね」と共感できたこと、新しい発見ができたことがよかった。話すのが一番！
	子育ての（も）アップデートが必要
	「保育園から保育園」の転園はよくあるが、「幼稚園から保育園」という選択を自主的にするという可能性
	幼稚園・保育園はその町によってカラーがいろいろだから、転園することもアリ！子ども・ママが気持ちよく通えることが一番。
	幼稚園は、子どもより親が通わせたい園選び
全体	子どもの朝食も、完璧を目指さなくてよい。気を抜けるところは抜く。
	まだ先は長い子育て